

缶詰用みかんの皮むきを、障害者の施設に委託

商品を大量生産する場合、多くの人手が必要になることもあるとのこと。

長崎県産みかんを使用した缶詰などを生産している**太洋食品**(島原市高島)は、みかんの皮をむく作業を多数の障害福祉施設に委託されています。

今回は、太洋食品の**馬場重博**業務部長と、太洋食品から作業を受託している障害福祉サービス事業所**大村さくらの家**(大村市木場)の**桑原茂子**管理者にお話をうかがいました。

- なぜ施設に発注しているんですか？

馬場さん「施設には20年以上前から発注しています。みかんの皮を機械でむくと、実が傷ついて品質が悪くなるので、個人の方に発注していましたが、施設なら大量に受けてもらえて効率的なので、発注するようになりました。」

- 発注するときに、不安はなかったですか？

馬場さん「最初は不安もありましたが、納品されたみかんの実がつぶれている割合が多い施設には直接訪問し、作業する方の横で『こうやると上手くいくよ』と教えるとすぐに改善してもらえます。現場に行くと気持ちが伝わるのがよくわかりますよ。」

- 施設に発注するメリットは何ですか？

馬場さん「施設では、職員の方が服装や手洗いの指導してくれるので、衛生的で安心できる点です。」

- 今年の発注量はどれくらいですか？

馬場さん「今年はみかんが豊作なので、施設には例年以上にお願いする予定です。作業環境が整えば、健常者以上に力を発揮してくれますよ。」



馬場部長を工場前でパチリ。

みかんの皮をむくときはみんな集中。



これが作業後の完成品。みかんがふさに分かれてしまいました。

桑原さん「みかんの皮むきは、去年から受注しています。」

専用の作業場として作ったテラスには陽も当たり、みんなウキウキして、集中して作業をしています。余りの人気ぶりで、平等に作業できるように、シフトを組んでいるんですよ。

今後は新しい業務にも挑戦して、みんなが夢を描けるようお手伝いしたいです。」



障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2408部 電話**095-895-2454**
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成21年11月13日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

15年以上前、筆者が大阪で一人暮らしをしていたとき、近所のスーパーで買いためするほど好きだったのが太洋食品の「金太洋甘夏みかん」。取材ネタを探しているうちに、施設の方から「太洋食品」さまのお名前が出たときはビックリ・・・馬場部長にもよくしていただき、人様とのご縁に恵まれる強運に感謝です！

杉永かまぼこ谷本常務インタビュー

昨今の経済状況のなか、大きく売り上げを伸ばしている杉永かまぼこ(長崎市幸町)は、9名の知的障害者を雇用されていて、労働大臣表彰を受賞した方もいらっしゃいます。

今回は、障害者雇用について杉永かまぼこの谷本和久常務取締役インタビューしました。

- 知的障害者を雇用するようになったきっかけは？

谷本さん「弊社の仕事は、昔は朝が早い、製造職は冬に冷たい物を扱う、夏は(ちくわを焼く余熱等で)熱いなど、労働条件に負の部分が多く、若い人が敬遠して人が集まらなかったようです。そんな時、当時の社長が知り合いに障害者の雇用を頼まれたのが契機となり、現在、社員107名中9名の知的障害者が頑張っています。」



知的障害のある方も、一般の健常者に混じって同じように働いています。年末にかけて、ラインはフル稼働になります。

- 知的障害者の特徴は？

谷本さん「真面目にコツコツと働くところです。健常者は、やれ『飲み過ぎた』、つい『夜更かしした』と言って平気で遅刻しますが、当社の障害者は目覚まし時計をかけて1人で起きてくる人ばかりで**全員がほぼ無遅刻、無欠勤で大きな戦力**です。」



杉永社長(左)と谷本常務。谷本常務は、杉永会長に口説かれて、銀行マンから転身されたそうです。

「また、**仕事にごまかしがない**ところも長所です。勤続30年以上の灰塚氏は、納品される膨大な数のケースに入った『すり身』を根気強く伝票と照合します。配送時のロスを出さず、利益に大きく貢献しています。彼らに休まれたら本当に困ります。」

- 知的障害者の労災事故もないそうですね。

谷本さん「ケガは取り越し苦労ですよ。彼らは指示されたことはキチンと守る。『触るな』といえど触らないから安心です。」

- 県内企業へメッセージを。

谷本さん「障害を心配される企業もあるかもしれませんが、**適材適所を見極めれば健常者に劣らない働きをします**。業容の伸展に伴い、これからもできる限りの雇用拡大を考えています。」

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2413部 電話**095-895-2454**
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成21年11月27日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

前号を発行した後、2社の企業から、商品のシール貼りと、チラシのポスティングのご相談を受けましたが、施設の売り上げが増えただけでなく、企業が求めていることがよくわかり、販売促進のヒントになりました

回覧用

中村ストアで、障害者の施設で作った門松を販売

いよいよ今年も残りわずか。お正月の準備で忙しくなってきたのではないのでしょうか？

中村ストア（佐世保市大塔）では、正月用のかわいらしい門松を販売していますが、この門松を作っているのは、障害福祉サービス事業所**長崎慈光園ぶろーど**（川棚町小串郷）。今回は、中村ストアの**白石靖夫**さんと、長崎慈光園ぶろーどの**吉田明**部長にインタビューしました。

- 取引を始めたきっかけは？

白石さん「去年、施設の方が門松を売り込みに来られたのがきっかけです。あの大きさの門松はセリで1000円以上するんですが、施設の門松は見た目がいいのに手頃な価格だったことと、地元の施設で作られており、弊社の経営方針 地域密着 とも合致したので即決しました。」



一生懸命作業してます！



中村ストア大塔店の門松も長崎慈光園ぶろーどで作りました。

- 去年の売れ行きはどうでしたか？

白石さん「初めて取り扱う商品だったので、一部の店舗のみで400個ほど販売しましたが、**売れ行きが非常によかった**ので**今年は数を倍近くに増やして**いただくことにしました。」

白石さん(左)とスタッフの皆さん

吉田さん(左から2人目)と作業チームの皆さん



- 施設と取引した感想は？

白石さん「商品もよかったんですが、融通を利かしてくれる点は良かったですね。例えばお客様の財布のヒモが堅いので、門松も去年に比べて小さめにして価格も安くしようと相談したら、すぐに対応してもらい助かりましたよ。」

吉田さん「障害のある方には、切り取った竹の運搬やシール貼りなどを担当してもらっていますが、『今年はいつから作るの?』と待ち遠しいみたいですよ。」

中村ストアさんとは、今後も信頼関係を築きながら、新商品のご提案などに対応できるようにしたいですね。」

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2408部 電話**095-895-2454**
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成21年12月11日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

この通信を発行し続けるのは、施設を訪問して「こんなこともしてるの!?!」という驚き・感動を県内の皆さんにご紹介したい!という率直な想いがあるから。(その想いは皆さまに届いているのでしょうか...?)今年の通信は本号が最後です。1年間お読みくださりありがとうございます!来年もよろしくお祈いします!

回覧用

諏訪神社の蛙のお守りは、障害者の施設で作製

あけましておめでとうございます。今年も「長崎県CSR通信」をよろしく申し上げます！
さて、皆さんは初詣には行かれましたか？県内で最も初詣客が多い**鎮西大社諏訪神社**（長崎市上西山町）で授与されている、厄難除けの信仰がある陶器製の蛙のお守りは、知的障害者入所更生施設**明けの星寮**（島原市宮の町）で障害のある方が作っています。
今回は諏訪神社の**宮田文嗣**祭儀部長と、明けの星寮の**永田重治**さんにインタビューしました。

- 蛙のお守りの由来を教えてください。

宮田さん「昭和57年の長崎大水害で神社の裏山が崩れたとき、当神社で信仰していた蛙に似た形の蛙岩が土砂を防ぎ止めご社殿を守ったので、蛙のお守りには災難除け、無事帰る、などの御利益があるとされています。」



宮田さんには、初詣の準備の合間に時間をとっていただきました。



永田さん(右上)と窯業班の皆さん

- 蛙のお守りを、明けの星寮が作製するきっかけは？

宮田さん「明けの星寮とは、先代の宮司からおつき合いしていたのがきっかけで、20年以上も前から作っていただいています。」

障害のある方がお守りを一生懸命作ってくださるのは神社としてもありがたいことです。」

- 大きな蛙のお守りには、別の御利益もあるそうですね。

宮田さん「お正月のみ授与する大きい蛙は、節分の日に行われる玉替え神事の福引き抽選会の抽選番号になります。多くの方に、災難除けと抽選の御利益にあずかっていただきたいですね。」

永田さん「当施設では、1年間で大小合わせて2000個以上の蛙のお守りを作っており、毎年11月に窯業班全員で諏訪神社に蛙を納めに行くのが恒例になっています。」

お守り以外にも『島原の子守唄人形』や干支などを作っていますが、島原市内の方でも、当施設で陶器を作っているのを知らないようなので、もっとPRしていきたいですね。」



蛙岩(左)と、蛙のお守り(大)岩が、蛙の形なのがわかりますか？

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。
詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、
こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2455部 電話**095-895-2454**
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年1月8日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

皆さんは今年の目標を立てましたか？筆者の今年の目標の1つが「1月末の駅伝で2.28kmを8分以内で走る」。スピード練習中心のメニューで、長距離向き体質の筆者には正直きついです…が、周囲に目標を公表してしまうと、追い込まれるので頑張らざるを得ません。。1月は節制して過ごします。

雲仙きのこ本舗 前田課長インタビュー

渡辺満里奈さんや森高千里さんも絶賛する「養々麺」が大好評の雲仙きのこ本舗(南島原市有家町)では、7名の知的障害のある方が働いており、平成20年には障害者雇用における優良企業として、厚生労働大臣表彰も受賞されました。

今回は、障害者雇用について、雲仙きのこ本舗の前田和彦総務課長にインタビューしました。

- 障害のある方は、どんな仕事をしていますか？

前田課長「コンテナを所定の場所に運ぶ、使用後のビンを洗浄するなど、機械ではできない作業を担当しています。近くに障害者の施設もある関係で、20年前から雇用をしています。」

- 障害のある方の仕事ぶりは？

前田課長「障害のある方が、風邪などで休むということを知ることがないし、労働時間を調整しようとしても『みんなに迷惑をかけるから、来させて欲しい!』と、とにかく責任感が強く、本当に頼りになります。繁忙期にも戦力として計算できますしね。」



えのき栽培用の容器は1日平均で15000本も運んでいるそうです。

- 障害のある方は、スタッフにもいい影響を与えているとか。

前田課長「障害のある方がいると、雰囲気や和やかになるんですよ。また、障害のある方と一緒に仕事をする時は、言葉をかけたり、思いやりの心が持てるようになるので、障害者雇用は、会社の人材育成にはとてもいいですね。」

- 最後に一言。

前田課長「弊社の楠田社長のモットーは『人にはそれぞれ役割がある』。必要じゃない人はいません。雇用以外でも、障害者施設への業務発注などで、今後もできる限り障害のある方に貢献させていただければと思っています。」

前田課長がお持ちの養々麺は、全国で大ヒット中!

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2451部 電話**095-895-2454**
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年1月22日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

障害者の雇用率で3年連続全国1位のユニクロ柳井正会長兼社長の6年ぶりの著書「成功は一日で捨て去れ」(新潮社)に1店舗1名の(主に知的)障害者を雇用することで、人員効率が高まるという話が書かれていました。障害者を雇用して企業が発展するなんて、とても素敵だと思いませんか？

回覧用

障害のある方が作るランタンキューピーを、お土産品店が販売

いよいよ、ランタンフェスティバルが14日(日)から始まりますね。

オランダ坂にあるお土産品店のQ屋(長崎市南山手)で販売しているランタンキューピーは、観光客に大人気だそうですが、これを作っているのは、精神障害者小規模通所授産施設ふれあい(五島市三尾野)に通っている皆さん。なぜ取り引きが始まったのでしょうか？

今回は、Q屋の内川淳代表と、ふれあいの片山伸子指導員にインタビューしました。

- キューピーを販売するきっかけは？

内川さん「以前、アルバイトをしていたお店の近くでシスターキューピー人形を見かけて、『いつか独立したらこの人形を売りたい!』と人形の裏に書いてあった連絡先をチェックしたらふれあいさんだったんです。」

- 相当気に入ったんですね。

内川さん「ええ。独立してから取り引きを開始した後、お礼をしに施設を訪ねました。『障害のある方の施設だろうな』とは思っていましたが、予想以上に重度の方が作業をしていたのでビックリしました。」

- それから交流があるそうですね。

内川さん「はい、人形を作っている皆さんがお店に来られて、人形が陳列されているのを見て、喜んでもらったことがとても印象に残っています。」

最初は『少しでも安くしてもらおう』と思っていましたが、実際にお会いして、『とんでもない!できるだけ皆さんの利益になるようにしないと』と頑張っているんです。」



Q屋では内川代表がオリジナルのデザインを描いてくれることも。

ランタンキューピーはストラップにピッタリ!



片山さん「10年以上前から作っているシスターキューピー人形の他にピワやカステラのキューピー人形も作っています。」

今まで営業したことがなく、人形を見た方からご連絡いただいて、取り引きが始まっているんですよ。

精神障害のある方がキューピー人形が着る洋服を作っていますが、今後は、龍馬キューピーなど長崎らしい商品にも挑戦したいです。」



片山さん(左奥)と施設のみなさん

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。

詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、

こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2448部 電話**095-895-2454**

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年2月12日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

東証1部上場企業エフピコのグループ企業で重度障害者を多数雇用している「ダックス四国」の且田社長(とても素敵な方でした!)に長崎で講演していただきました。且田社長によると「障害が重い方を優先して採用する」とのこと。固定観念に捕らわれず柔軟に考えれば、道は開けるんですね。

回覧用

障害者の施設に、「障害者基本計画」の印刷を発注

官公庁では、年度末を迎えて、報告書などを印刷する機会も増えてきました。

長崎県障害福祉課では「長崎県障害者基本計画」の改訂版の印刷を、障害福祉サービス事業所ほほえみの家(長与町高田郷)に発注しましたが、出来映えはどうだったのでしょうか？

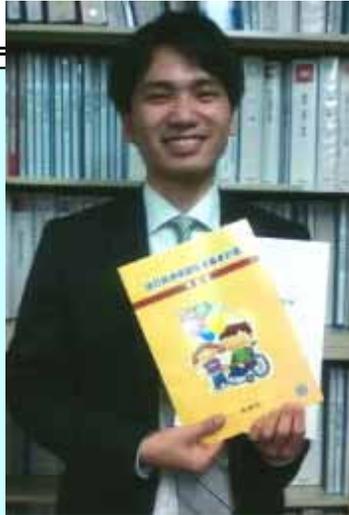
今回は、ほほえみの家の藤田和世志職業指導員と、障害福祉課の小島陽平主事にお話をうかがいました。

- ほほえみの家に発注した経緯は？
小島さん「カラーの概要版とモノクロの計画を合わせて約1000冊分の印刷について、3つの障害者施設による見積もり合わせで決定することにしました。」

想定よりも随分安かったうえに2~3週間で納品していただき、順調にいきましたね。」

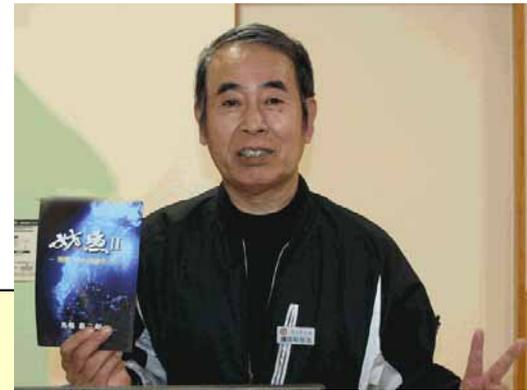
- 概要版の表紙には、かわいい絵がありますね。
小島さん「表紙のデザインは施設にお任せしましたが、多くの方に見ていただくものなので、やわらかいタッチになっていて、満足しています。」

- 施設に発注して良かったことは？
小島さん「全ページに、視覚障害のある方にもご理解いただけるように、文章を音声で読み上げる『SPコード』を入れています。一部、入れるスペースを確保できなかったんです。そんなページも、全体的に縮小してうまく調整していただいたので、とても助かりました。本当にお世話になりました！」



入庁1年目の小島さん。
仕事も慣れてきたかな？

藤田さんには「妨魚」を持っていただきました



藤田さん「印刷物のデザインは、お客様の『こんな感じで』というイメージを大切にしています。『基本計画』の表紙も、暗いイメージは避けるように配慮しました。」

当施設では、長崎で開催された全国大会のパンフレット、チラシ、封筒一式の印刷実績がありますが、特に印象に残っているのは、新聞などで報じられて反響の大きかったパーキンソン病の方が自費出版された冊子『妨魚』です。内容も感動的だったうえに、反響が大きく、携われて本当によかったです。」

障害者施設へ発注すると優遇措置があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ法人税等の優遇措置があります。
詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、
こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



企業と障害者の取引事例紹介紙「長崎県CSR通信」 発行部数2479部 電話095-895-2454
発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年2月26日(毎月第2・第4金曜発行)FAX095-823-5082

他人には教えたくなかった野口敏氏の著書「誰とでも15分以上会話がとぎれない!話し方66のルール」(すばる舎)も40万部を突破したそうです。実は、会話は情報収集にも威力を発揮し、この通信の取材ネタも多くの方との会話から生まれます。新しい展開を求めるなら、誰かと会話するのもいいかもしれません。

回覧用

佐世保京町バス停前に「ショップ&カフェみつば」がオープン

3月3日(水)、佐世保市の京町バス停前に「ショップ&カフェみつば」がオープンしました。ここで販売されているのは、県内の障害のある方が作られた商品で、店舗の奥にはワッフルやコーヒーを楽しめる喫茶スペースも併設されています。

今回は、「ショップ&カフェみつば」の山本勝也店長にインタビューしました。

- お客様が多いですね！

山本さん「京町バス停の目の前で、バスを待つ方も立ち寄られますよ。」

- どんな商品が人気ですか？

山本さん「花や野菜、クッキーなどが人気です。バス停の前なので、お米やキャベツなどの重いもののお買物にも便利です。

また、商品の見せ方や試食の提供など、売り方を工夫している施設の商品は売り上げも良く、完売する商品もありますね。」



全面ガラス張りの店内にはパン、豆腐、ジャムをはじめ多数の商品が並べられ、奥のカフェではリフレッシュも。

- 商店街との連携は？

山本さん「四ヶ町商店街の竹本慶三理事長には『はっぴい！FM』でのPRなどのご協力をしていただいていますし、商店街でチラシを配ったところ、予想以上の反応があったので、活性化のお役に立てるのではないか、と考えています。」

- お店をどのように活かしたいですか？

山本さん「店内のモニターで各施設の紹介や商品の製造過程を紹介することで、地域の方々に障害を持つ方への理解を深めていただき、また、商品の安全・安心もPRしていきます！」



山本店長(後列中央)のもと、居心地のよい店舗づくりに努めます！

プレゼントコーナー

「みつば」のワッフルとコーヒーのセットを5名様にプレゼントします。

お名前、電話番号、感想「みつばのワッフルセット希望」と書いて、下のFAXへ3月19日(金)正午までにお申し込みください。

当選者のみにご連絡

障害者施設へ発注すると優遇措置があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ法人税等の優遇措置があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



「長崎県CSR通信」発行部数2477部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年3月12日(毎月第2・第4金曜発行)

「長崎県CSR通信」をきっかけに、施設のことももっと知ってもらうには...と思って手に取ったのが、博報堂DYグループによる「『自分ごと』だと人は動く」(ダイヤモンド社)。「他人ごと」ではなく「自分ごと」。面白い言葉ですね！今回から新設の「プレゼントコーナー」は、「自分ごと」にできるのか！？楽しみです。

回覧用

長崎県の池松福祉保健部長が、施設に名刺の印刷を発注

4月から異動で部署が換わる方は、新しい名刺の印刷をお考えではないでしょうか？

長崎県では福祉保健部を始め、名刺の印刷を障害者施設に積極的に発注しています。

今回は、名刺の印刷をしている障害福祉サービス事業所**電腦工房**(長崎市牧島町)の**草野大輔**職業指導員と名刺を発注した長崎県福祉保健部**池松誠二**部長にインタビューしました。

- 県は、施設商品の販売を促進しています。

池松さん「施設の商品をPRする以上、まず自分たちが発注して、良さを確認すべきですからね。」

名刺裏面の英語表記もいい出来映えで1～2日で仕上がるので、便利ですよ。」

- 施設の売り上げアップに必要なことは？

池松さん「品質向上の努力が不可欠だと考えます。お客様に満足してもらえなかったら、1回は買ってもらっても、不況になればすぐに売れなくなります。」

- リピーターを増やすことが重要ですね。

池松さん「障害のある方が作る商品を購入することは、ハンデを持ちながらも頑張っている人を応援することになるんですよ。そうしてもらえるためにも、施設で作られる商品は、企業の商品と比べて遜色ないことが前提ですね。」

「佐世保市の京町バス停前に施設商品を販売する店舗『ショップ&カフェみつば』もできましたが、品質がよければ、自然と広がるはずですよ。」



名刺担当の草野さん(右)と中村明子さんのペア



池松を中心に、成果を出すべく頑張っています！

草野さん「名刺の印刷は、障害のある方と職員のペアで担当しています。点字や英語の名刺は通常作っていますが、一番苦労したのは中国語の名刺。読み方がわからないので、文字を探し探し入力しましたが、OKが出たときは嬉しかったですね。」

プレゼントコーナー

電腦工房さまのご厚意で、名刺100枚セットを1名様にプレゼント！

お名前、電話番号、感想、「電腦工房の名刺希望」と書いて、下のFAXへ3月31日(水)正午までにお申し込みください。

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



「長崎県CSR通信」 発行部数2469部 電話**095-895-2454** FAX**095-823-5082**

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年3月26日(毎月第2・第4金曜発行)

「伝える本。」(山本高史氏;ダイヤモンド社)でガツンとやられたのは、言葉が「届く」のではなく「伝わる」ためには、「送り手が受け手の言って欲しいことを言ってあげること」。この通信はどうなのか・・・?この通信も次号で50号。これからもコツコツ頑張るので、お付き合いをよろしくお願いします!

回覧用

障害者施設で作るこだわり食パンを、保育園が購入

子供を持つ親御さんにとって、「体に良い物を食べさせたい」というのは大きな関心事。
江永保育園(佐世保市江永町)では、障害福祉サービス事業所マザーワート(佐世保市小舟町)から材料にこだわった食パンを週に1回購入していますが、何がきっかけだったんでしょう？

今回は江永保育園の河上愛子栄養士とマザーワートの横石たまき理事長に話を聞きました。

- マザーワートと取引を始めた理由は？

河上さん「当園は、米や野菜など食べ物全てにこだわっているの、無農薬で地元産の野菜を取り扱っている『だいち村』三川内店に『国産小麦で、無添加の食パンはないか？』と相談したところ、マザーワートを紹介してくれたんです。」

横石さん(前列右から2人目)と施設の皆さん

シフォンケーキ、本当に美味でした！



河上さん(中央)と元気いっぱいの園児達。早く大きくなってね！

横石さん「当施設のパンやクッキーは、国産小麦粉、粗糖、対馬地鶏(吉村さんち)のタマゴ、グレープシードオイルなどほとんど材料にこだわっています。」

商品を作るのは、主に障害のある方。計量など易しい作業から始めて、1年もすれば全工程できるようになります。

あやかさんはシフォンケーキ作りのプロで今では『パティシエールになる！』と自信をつけて、頑張っています。」

- 実際に購入した感想は？

河上さん「園児は喜んで食べます(笑)こだわりの材料はもちろん、園児が食べる量に合わせたグラム数で作ってくれるから残すことも少なく、食育の点でピッタリですね。」

また、食物アレルギーの園児のために、卵や牛乳を使わないパンも作ってくれるそうなので、助かります。」

プレゼントコーナー

マザーワートのご厚意で、こだわり素材シフォンケーキ(写真下)を3名様にプレゼント！(郵送)

お名前、電話番号、感想、「マザーワートのシフォンケーキ希望」と書いて、下のFAXへ4月16日(金)正午までにお申し込みください。

障害者施設へ発注すると**優遇措置**があります。

その1 障害者施設との取引額に応じ**法人税等の優遇措置**があります。詳しくはこちら <http://www.pref.nagasaki.jp/kurashi/pdf/zeiseikaisei.pdf>

その2 読む社会貢献情報紙「長崎県CSR通信」バックナンバーは、こちら <http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutin/CSR.html>

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。



「長崎県CSR通信」発行部数2472部 電話**095-895-2454** FAX**095-823-5082**

発行 長崎県障害福祉課(担当:村井)平成22年4月9日(毎月第2・第4金曜発行)

紅白にも出場し、ベストCD(筆者の3歳の息子は「ふるさと」が大好き)も絶好調のファンキーモンキーベイビーズ。彼らがステキなのは、地元八王子を心から愛して、観光大使に就任するなど地元の活性化に貢献しようとするところ。我ら施設でも、地元長崎が元気になるお手伝いができるように頑張ります！